

令和元年7月26日
愛媛大学

学生も参加！産学官連携で製品化！

－「温州みかん葉」を活用した「みかん葉っこう茶」－

(記者説明会の実施)

このたび、愛媛大学大学院農学研究科附属食品健康科学研究センターの菅原卓也教授と愛媛大学農学部学生9人が、「温州みかん葉」を活用した「みかん葉っこう茶」を、愛媛県、(株)松南園および伊方サービス(株)との産学官連携のもと、地域産業との連携活動を支援する本学の「地域志向教育支援事業」に加え、えひめ産業振興財団「ライフサポート産業支援事業」の支援を受け、製品化しました。

愛媛県内で最も生産量の多い柑橘類である温州みかんは、果皮部分に様々な健康成分を含むことが知られていますが、葉にも、抗アレルギー効果が知られているノビレチンが、果皮と同程度含まれていることが確認されました。また、水に溶けやすい成分にも抗炎症効果があることが明らかになり、新規の機能性食品素材として期待できます。一方、剪定などにより排出される温州みかん葉の多くは焼却処分されており、これまで活用されていませんでした。そこで、学生とともに温州みかん葉を活用した製品の開発に取り組みました。完成した「みかん葉っこう茶」の試飲アンケートを実施したところ、紅茶のような風味があるとの評価もあり、結果は良好でした。

記者説明会当日は、みかん葉っこう茶の試飲も予定しておりますので、この機会に、ぜひお試しください。



つきましては、下記のとおり記者説明会を実施しますので、取材くださいますよう、お願いいたします。

記

日時：令和元年8月1日(木) 11:30～12:30

場所：愛媛大学本部5階第1会議室(松山市道後樋又10番13号)

会見者：愛媛大学理事・副学長兼社会連携推進機構長 にしな ひろしげ 仁科 弘重

愛媛大学大学院農学研究科附属食品健康科学研究センター長 すがはら たくや 菅原 卓也

愛媛県産業技術研究所長 せの えいじ 瀬野 英二

公益財団法人えひめ産業振興財団専務理事 わたせ けんじ 渡瀬 賢治

株式会社松南園代表取締役社長 むらい ごう 村井 剛

伊方サービス株式会社代表取締役社長 おおやけ ひろみつ 公受 弘充

みきやん、ダークみきやんも
来学します!!

※送付資料2枚(本紙を含む)

本件に関する問い合わせ先
農学研究科
附属食品健康科学研究センター
センター長・教授 菅原卓也
TEL: 089-946-9863
Mail: sugahara.takuya.mz@ehime-u.ac.jp

温州みかんの葉を活用した製品の開発について

愛媛大学大学院農学研究科
附属食品健康科学研究センター
菅原卓也

温州みかんには、カロテノイドの一種である β クリプトキサンチンやフラボノイドの一種であるナリルチン、ヘスペリジンなどの健康効果が期待できる様々な成分が含まれている。これらの成分は、果肉よりも果皮に多く含まれていることが知られているが、葉にも含まれており、花粉症などのアレルギー症状を緩和するノビレチンは、果皮と同程度含まれることが明らかになった（愛媛県産業技術研究所）。一方、温州みかん葉は、定期的な剪定等で排出されるものの、活用されることなく廃棄処分されている。

温州みかん葉を健康機能性素材として捉え、これを有効活用することは、柑橘産業の活性化の一助になると考え、温州みかん葉の機能性解明に関する研究に着手した。研究を開始するにあたり、ノビレチンやヘスペリジンなど、すでに機能が明らかにされている成分ではなく、これまであまり注目されてこなかった水溶性成分の機能性に着目した。その結果、水溶性抽出物、特に低分子物質に、炎症状態を緩和する効果があることが培養細胞による実験で明らかになった。炎症、特に慢性炎症は、糖尿病や認知症はじめとして、様々な疾病の誘発原因になることが知られていることから、動物実験等により温州みかん葉の抗炎症効果の解明が今後さらに進めば、その活用範囲は拡大するものと期待できる。

温州みかん葉を活用した製品開発では、地域産業と連携活動を支援する本学の「地域志向教育研究支援事業」に加え、えひめ産業振興財団の「ライフサポート産業支援事業」による伊方サービス株式会社への支援のもと、愛媛県および株式会社松南園にご協力いただき、農学部学生 9 人の参加による産学官連携製品開発プロジェクトを 2018 年 2 月に立ち上げた。温州みかん葉を素材としてどのような製品が開発できるかという議論から開始し、11 回にのぼる開発会議や東京で開催された食品開発展での試飲アンケートなど、試行錯誤の末、ようやく「みかん葉っこう茶」を完成するに至った。